

「地域包括医療病棟」開設

(現状) 日本全国の高齢化率の高い地域でこんな事が起きてます

誤嚥性肺炎や尿路感染症等の軽症～中等症の疾病による
高齢者の救急搬送が増加



安静臥床を伴う急性期治療を受ける間に
ADL (日常生活を送るための身体的能力) が低下



治療の終了と同時に自宅に退院できなくなる



このような課題を解決すべく・・・

救急患者等を受け入れる体制を整え、リハビリテーション、栄養管理、入退院支援、在宅復帰等の機能を包括的に担うことを目的として2024年6月より「**地域包括医療病棟**」が新設されました。

当院では、これまで運営してきた急性期病棟の一部をこの「地域包括医療病棟」に変換し、特にこれまで急性期病棟に入院されていた比較的軽症から中等症の高齢者救急患者さまを対象として、**急性期の治療からリハビリ・在宅復帰までの医療サービスを1つの病棟にて一貫して提供**できるよう、2024年10月より体制を整備致しました。

これまで以上にシームレスな入院治療を提供することにより、お待ちしておりますご家族にとっても安心した入院生活となることが期待されます。

地域包括医療病棟における医療サービスのイメージ



救急患者を受け入れる体制を整備



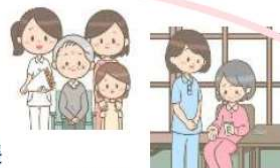
一定の医療資源を投入し、急性期を速やかに離脱



早期の退院に向け、リハビリ、栄養管理等を提供



退院に向けた支援
適切な意思決定支援



早期の在宅復帰

10対1の看護配置に加えて、療法士、管理栄養士、看護補助者(介護福祉士含む)による高齢者医療に必要な多職種配置

包括的に提供